

# 謹賀新年

平成二十五年 この新しい一年も

岩津の天神様の御加護のもと

無事息災でお過ごしになれますよう

お祈り申し上げます



春まだ浅きころ  
天神様が愛された梅の花が自然の気を放ちます

## 道義国家「日本」を取り戻す

宮司 服部 憲明

新年明けましておめでとうございます。輝かしき平成二十五年癸巳歳の新春を迎え、皇室の弥栄と聖寿の萬歳を壽ぎ奉り、関係皆々さまの御平安をお祈りいたします。

昨年は内外情勢に大きな動きの見られた歳でありました。国民が民主党政権に国の舵取りを委託し三年半、我が国は国家としての屋台骨が大きく揺らぐ事態を迎えてしまいました。政党政治の我が国に於いて、民主党という政党は、政権奪取の為の道具であり、党としての綱領も持たない烏合の衆でありました。出来もしないマニフェスト選挙に踊らされて、民主党に投票した国民が馬鹿を見るという結果になってしまったのです。災害復興、経済、教育、外交安全保障、内政などなど、いずれをみても危機的な状況に陥ってしまいました。旧保守的（自民党）な政治がダメだからと言って圧倒的な期待を背負って出来上がった民主党政権がこの結果です。大方の国民もこれに気付き始め、漸く昨年末の解散となり、誰がこの国の舵取りをするのかと、言うことが、最大の関心事となりました。

特に尖閣諸島に係わる日中間の騒動は、我が国にとって大きな危機となりました。一昨

年の中国漁船衝突事件に始まり、昨年の尖閣国有化に至っては、中国共産党主導と思われる暴力的な反日デモが組織的に繰り返されました。そして度重なる中国公船の領海侵犯が行われても、手も足も出ない我が国の対応を見て、彼の国が見逃すわけはありません。この弱腰日本を、どれだけの方が地団駄踏んで悔しい思いをされたでしょうか。

中国国内での日々悪化する環境破壊、貧富格差の増大、党幹部の汚職の蔓延に、人民は暴発寸前と言われています。そのはけ口を反日運動に結びつけ、更に日本に対し攻撃の手を強めて来るであろう事は容易に想像出来ます。その触手は、中国の目指す海洋覇権の要、我が国の領土、尖閣に向けられているのです。膨張し続ける中華思想は止まる所を知りません。元々朝貢国として遇<sup>あし</sup>つてきた我が国を倭国、小日本と呼び、卑弥呼を始め、日本人を日本鬼子などと蔑視し、そんな教育を国として徹底して行っています。

尖閣が奪われれば、次は沖縄が的になり、おびただしき数の中国人を送り込んで来るでしょう。そして人民解放軍政治工作条例に基づき、武力なしにでも日本の政治家、官僚、財界を搦め捕り、強かな攻略を進めてくるでしょう。心配しすぎとの謗りを受けるかも知

れませんが、可能性は全く無いわけではありません。現在でも日本在住中国人は六十七万五千人を超えています。一旦中国の国防動員法が発せられたら、彼らはそれに従わなければなりません。周辺国に大量移住させ、異民族「同化」を繰り返してきた漢民族の歴史を、チベット、ウイグル、モンゴルの現状と重ね合わせ、私どもはしっかりと認識せねばなりません。

これらの認識を持ち、国家的危機を切り返すリーダーを、国民は今望んでいるのです。元々日本は道義を重んずる道義国家でありました。これは我が国の成り立ち、地理的立地条件、国民性などの他、我が国の伝統を造り上げる中で培ってきた精神性であります。憧れの唐の都、長安へ出掛けることもなく遣唐使を廃止し、日本を朝貢国から自立させた御祭神「菅原道真公」は、今の我が国をご覧になり、どのように感じておられるでしょうか。

祈りの社、岩津天満宮の、尊い恩顧<sup>みなとのあゆみ</sup>を蒙り、道義国家「日本」を取り戻すべく、ひたすら祈りを続けて参りたいと思います。

平成二十四年十二月四日識